

令和4年（2022年）の福德岡ノ場の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

2021年8月以降噴火は認められないものの、引き続き変色水域が確認されました。

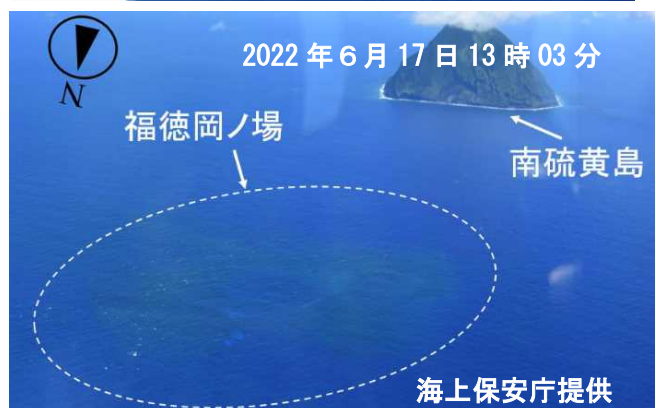
○ 噴火警報・予報の状況、2022年の発表履歴

2022年中変更なし	噴火警報（周辺海域警戒） 火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）
------------	--------------------------------------

○ 2022年の活動概況

気象衛星ひまわりによる観測では、噴火は確認されませんでした。

海上保安庁が実施した上空からの観測では、引き続き、変色水が確認されました。また、5月、8月、11月の同観測では、由来や物体は不明な浮遊物が認められました。なお、2021年8月13日から15日にかけて発生した海底噴火で形成された新島は、2021年12月まで確認されていたが、2022年3月15日の観測では認められませんでした。



この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

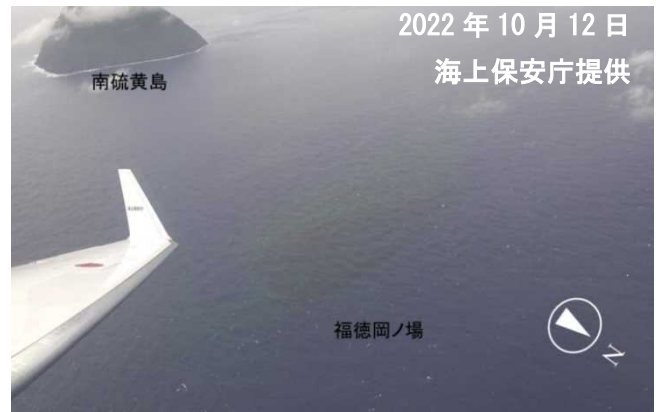
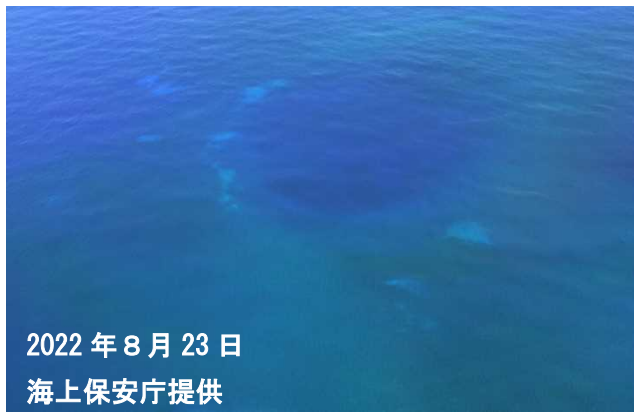


図1 福德岡ノ場 火口直上の状況（前ページの続き）

- ・ 海上保安庁が定期的の実施した上空からの観測では、福德岡ノ場の火口直上で乳白色～薄い黄緑色ないし薄い緑色の変色水が認められました。
- ・ 5月、8月及び11月には由来や物体は不明ですが、浮遊物が認められました。

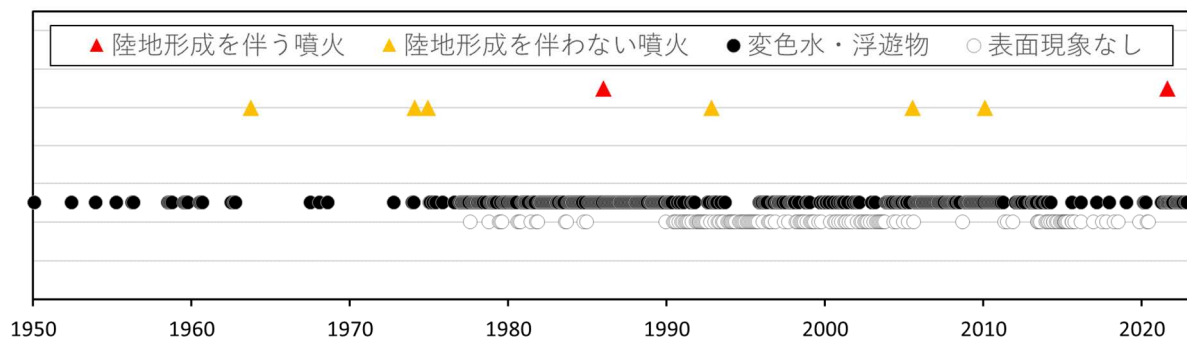


図2 福徳岡ノ場 1950年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。●は変色水域や浮遊物が認められた観測、○は変色水域を含め特段の表面現象が認められなかった観測、▲は陸地形成を伴う噴火が認められた観測、△は陸地形成を伴わない噴火が認められた観測を示します。

海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、気象庁、漁船及び報道機関等の観測による。

- ・2021年8月13日に海底噴火が確認された福徳岡ノ場では、過去にも数年間隔で海底噴火が確認されています。発生する噴火には、陸地を形成するような規模の噴火と、陸地を形成しないそれよりも規模の小さな噴火があります。
- ・1986年にも噴火が発生し、新島を形成しましたが、海面上に姿を現す顕著な噴火は1月18日～21日の数日でした。その後、3月26日には新島は消滅しています。
- ・2010年2月3日に小規模な海底噴火、浮遊物、変色水域が認められた後も、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が断続的に認められていました。
- ・福徳岡ノ場の過去の活動履歴を考慮すると、2021年8月に発生した陸地を形成するような規模の噴火が、再びすぐに発生する可能性は低いと考えられます。

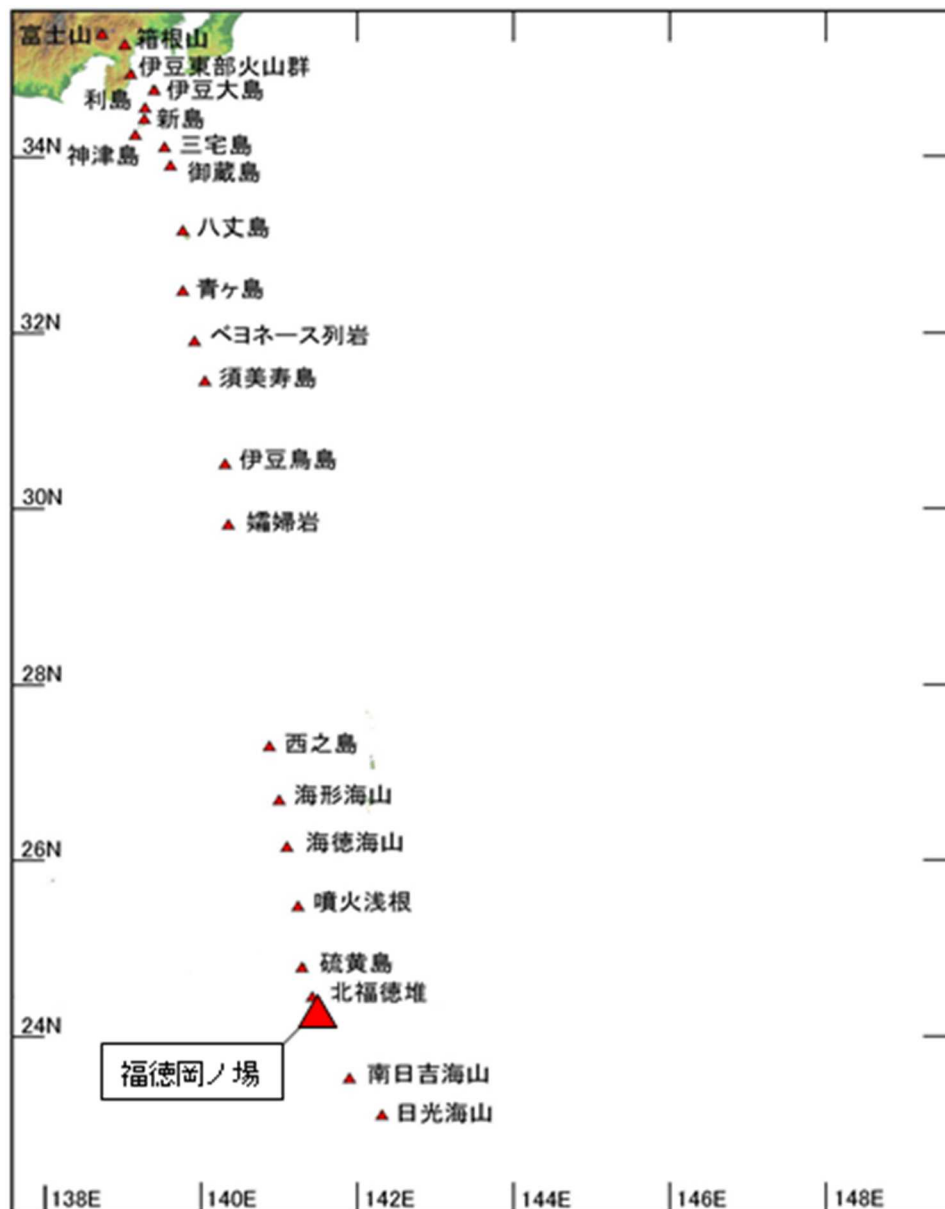


図3 福徳岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福徳岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。